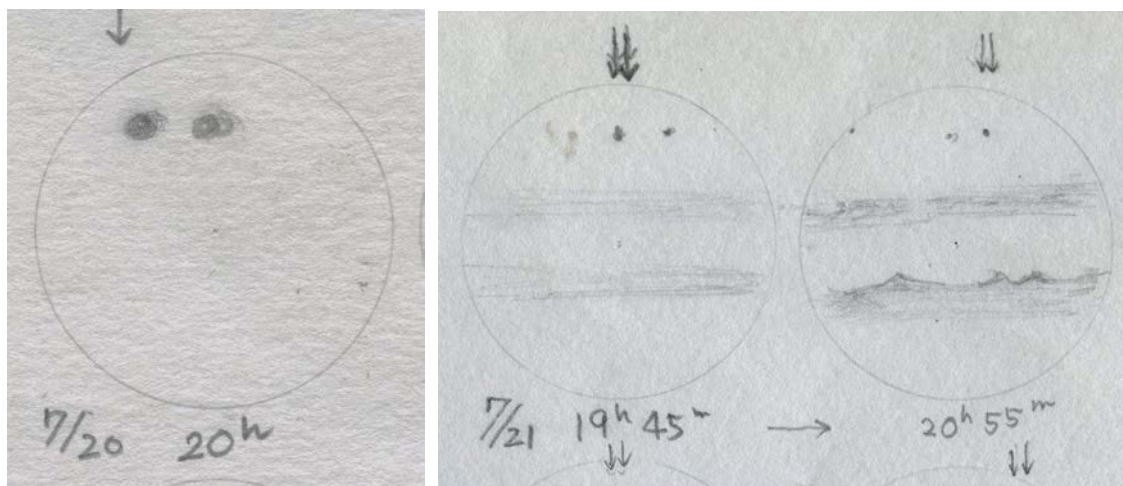


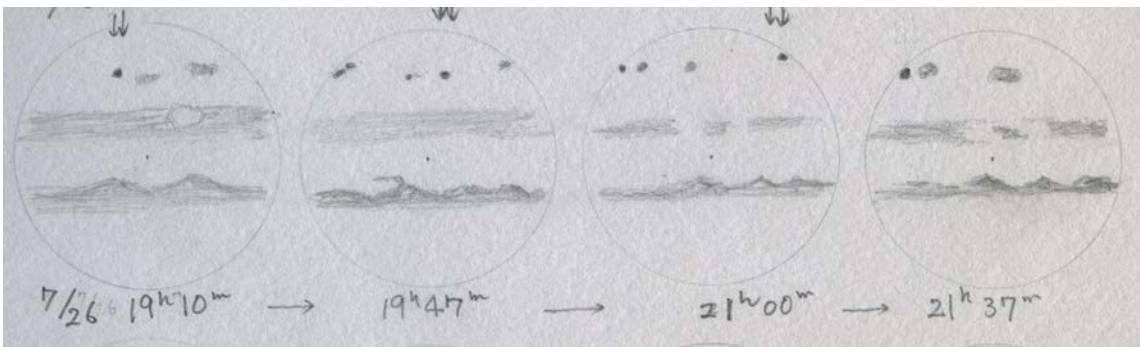
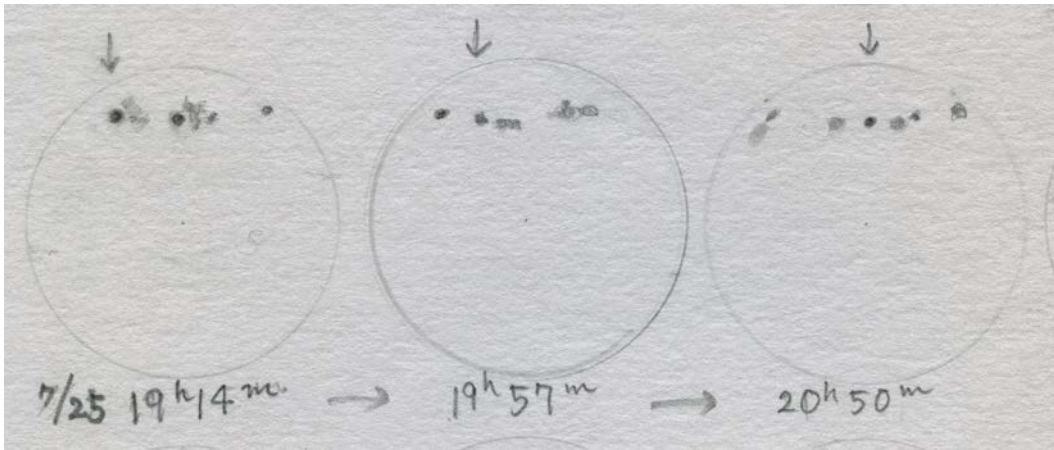
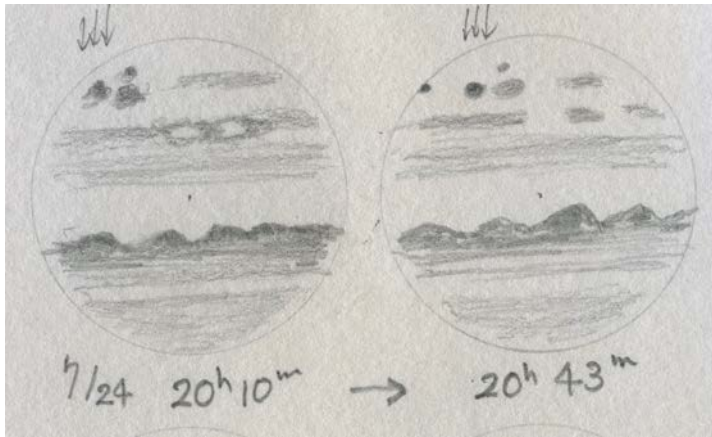
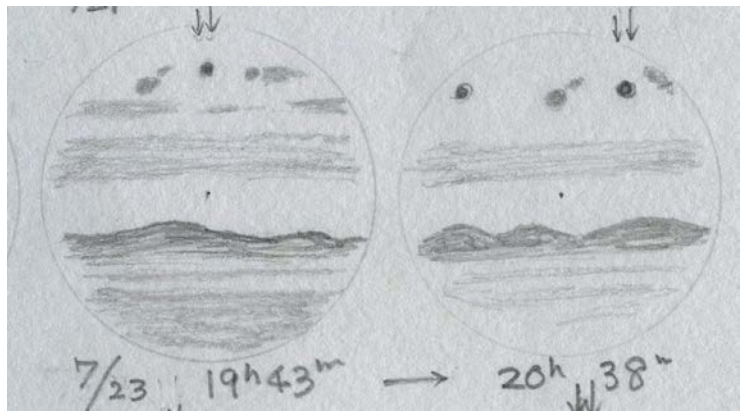
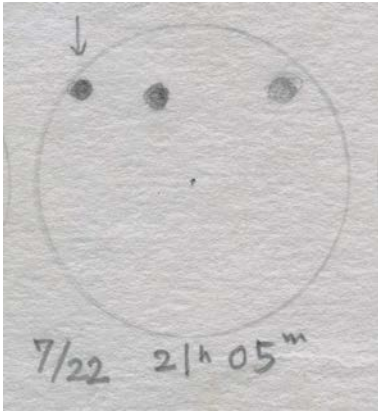
*** 1994年のSL9彗星の衝突のスケッチ画像を収蔵**

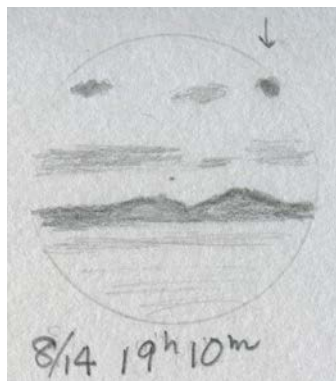
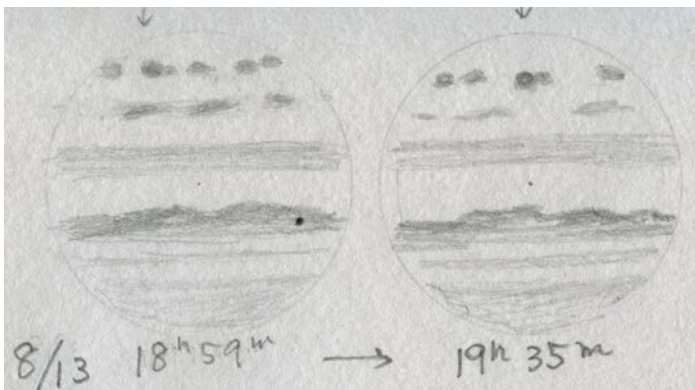
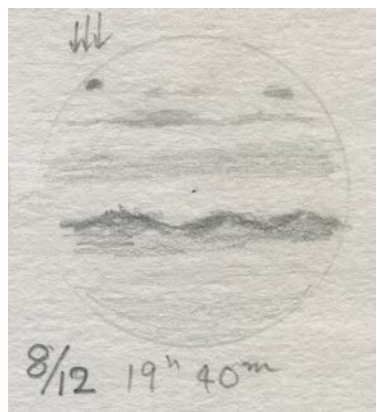
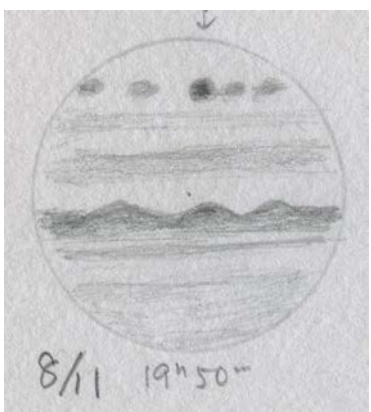
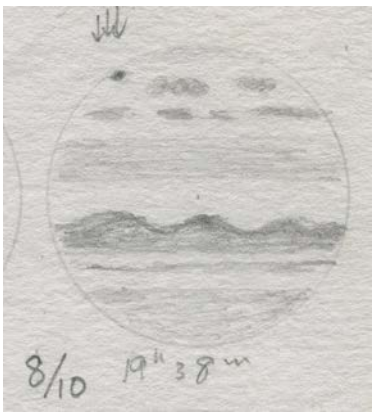
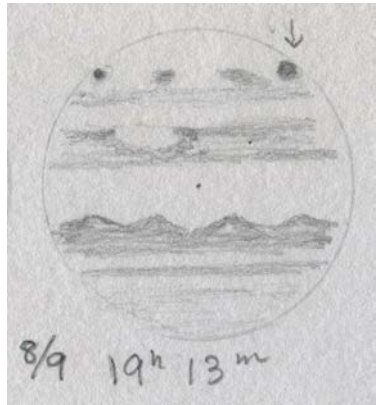
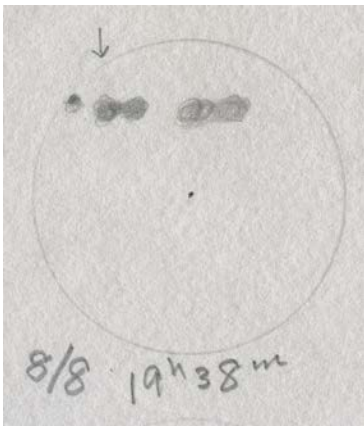
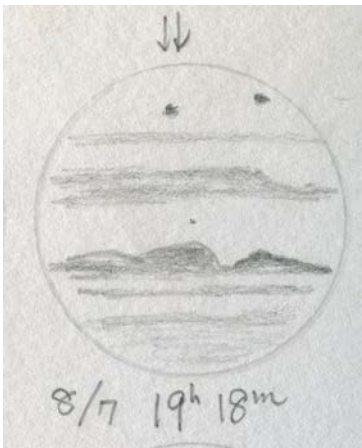
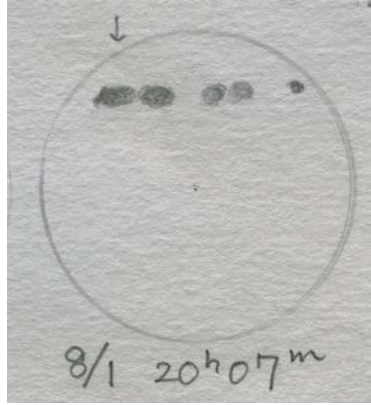
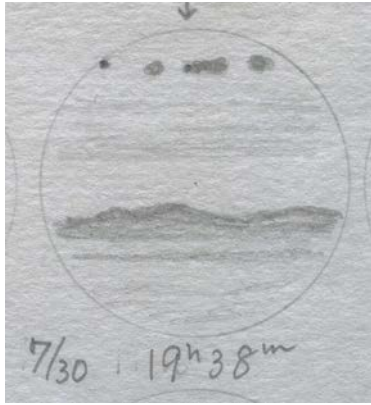
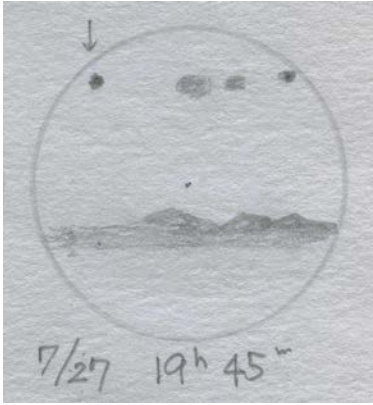
1993年3月24日、ユージン・シューメーカー、キャロライン・シューメーカー、デイヴィッド・レヴィらによってSL9彗星(シューメーカー・レヴィ第9彗星)が発見された。シューメーカー・レヴィ第9彗星は、発見されたときには核が棒状に見え銀河と見間違えられたが軌道解析によって、この棒状の天体は木星の周回軌道に乗っている事が分かり、これは惑星に小天体が捕獲された初めての観測であった。木星に捕獲されたのは1960年代後半から1970年代初めであり、1992年7月7日には木星からわずか7万kmという、木星の半径よりも近い距離まで接近していたことも判明した。その際、シューメーカー・レヴィ第9彗星はロッシュの限界を超え、潮汐力によって20個以上の破片に分裂し、核が棒状に見えたのであった。

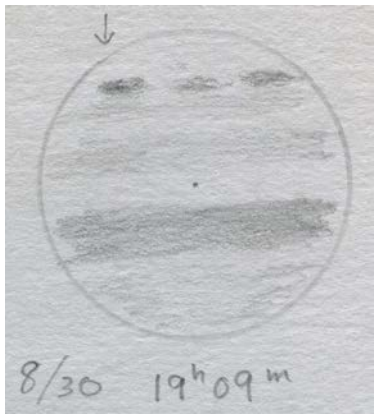
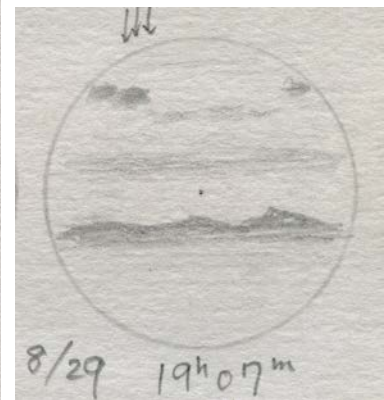
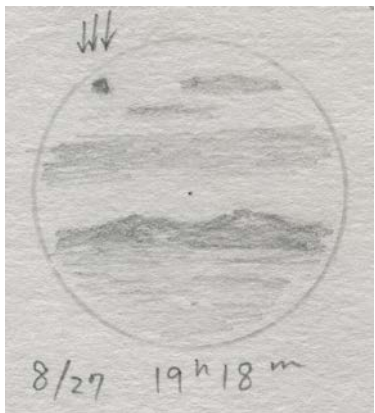
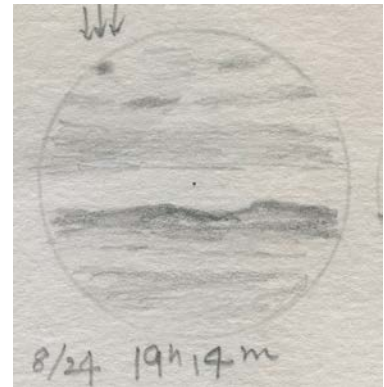
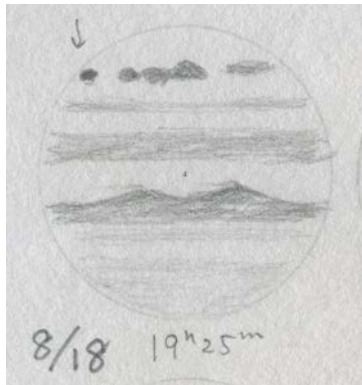
その後、中野圭一氏によって1994年7月頃に木星に衝突する事が予測され、1994年7月16日20時11分から、同年7月22日8時5分3秒までに分裂した核が60km/sの高速で相次いで木星に衝突したと言われている。地球の位置から見て木星の数度裏側の位置で衝突が起きたため直接観測はできなかったが、衝突時の閃光や、その後自転によって現れた衝突痕の観測ができた。最大の衝突痕は1994年7月18日7時32分0秒に衝突したG核と呼ばれる塊によるもので、直径12000kmという地球ほどのサイズの暗いスポットが木星上にできた。この衝突痕のスケッチ観測が東京天文台の畑中至純氏によって行われており、今回、そのスケッチを入手した。畑中氏によるスケッチは、7月20日から8月30日にわたって晴れていればスケッチ観測が行われている。

今回、畑中氏から渡されたものは一般公開の展示用に作成されたものであり、オリジナルのスケッチは観測野帳に書かれている。それを掲示用に日時を追って大きな「なめこ紙」と呼ばれる紙に転写したもので、写真の中の日時は1994年の観測日時である(写真1)









以上 すべてで写真1とする

実際には、大きななめこ紙に下の写真のように書かれているのだが、写真2、写真3もその一部分を取り込んだものである。

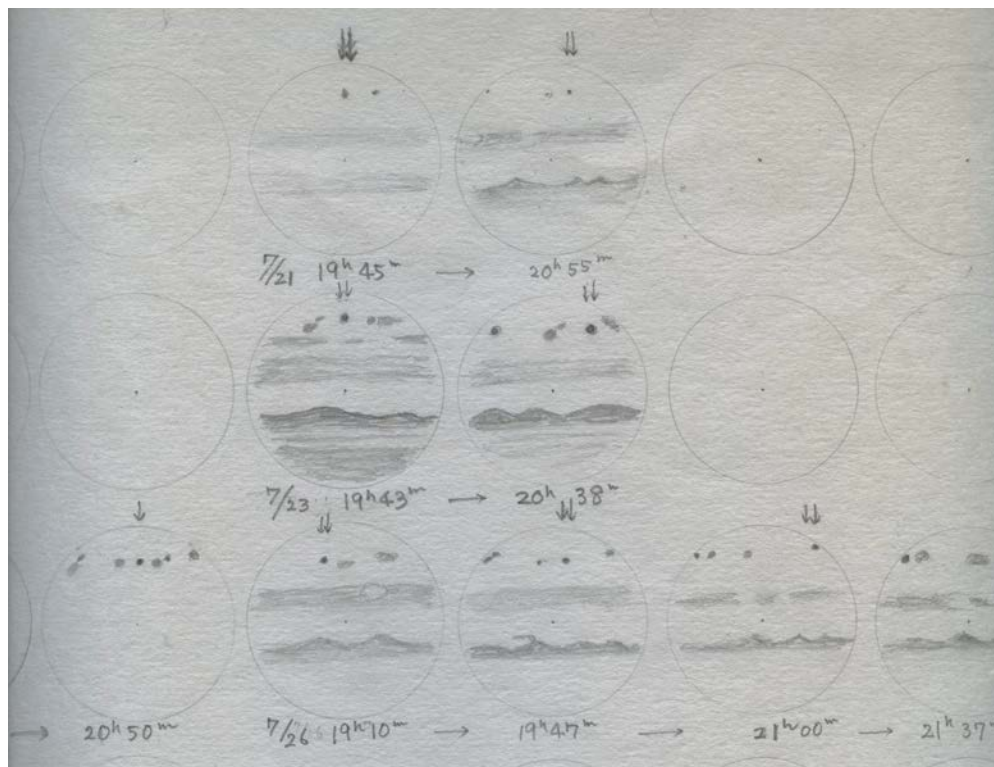


写真2

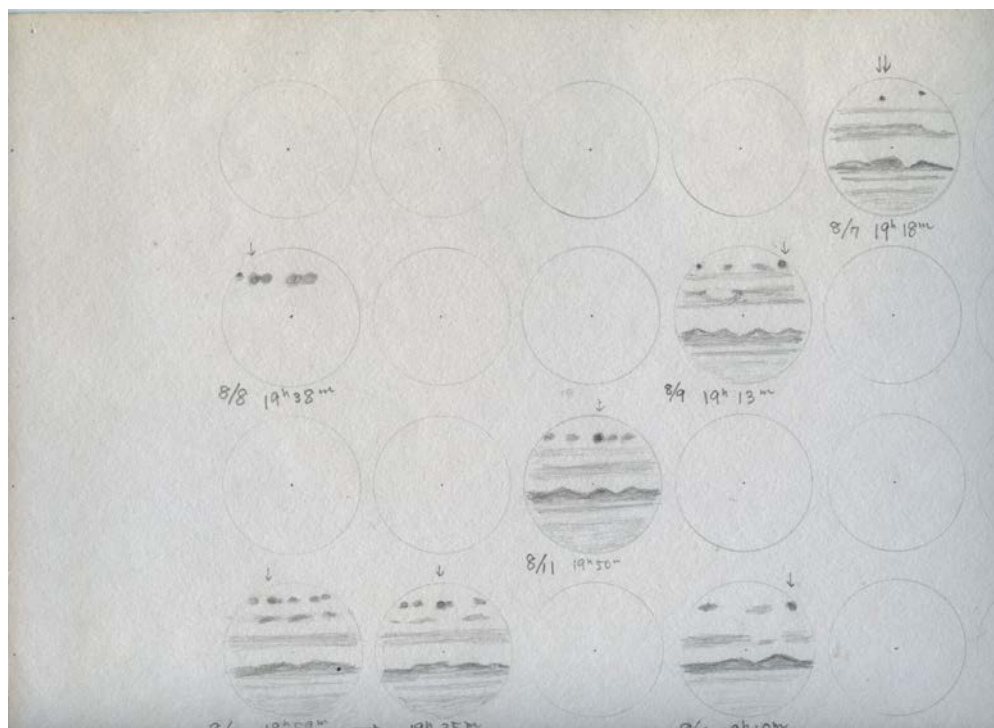


写真3

これらアーカイブ新聞の記事にお気づきのことがあれば、編集者中桐にご連絡いただければ幸いです。中桐のメールアドレスは、arenaoj@pub.mtk.nao.ac.jp